

人事院は不当解雇処分を取り消せ！

3日間連続の人事院・厚労省前座り込み行動スタート

全厚生闘争団の当事者が次々とマイクで訴え

国公労連社保庁不当解雇撤回闘争本部は3月15日、18日、19日の3日間、人事院の勝利判定と日本年金機構の有期職員雇い止め阻止にむけた座り込み「緊急人事院・厚労省前行動」を取り組みました。

初日の15日は、全労連の各単産と北区労連、民間労組、JAL不当解雇撤回原告団が激励に駆けつけ総勢150人が参加しました。全厚生の中部社保支部と関東社保支部、近畿社保支部、日本年金機構支部、全厚生闘争団当事者（北海道・秋田・東京・愛知・京都・大阪・香川）も多数参加しました。

早朝宣伝のあと座り込み行動を実施

晴天のもと国公労連は、朝8時30分から厚労省・人事院前での宣伝行動を実施し、各単組の弁士が宣伝カーから訴えるとともに、「人事院は不当解雇処分を取り消せ」「年金記録解決のため雇い止めは撤回を」と訴えるチラシ1600枚を配布しました。

10時からの座り込み行動（写真右）では、国公労連・宮垣中央執行委員長が主催者あいさつを行い、全厚生闘争団の当事者の京都の北久保さん（写真左下）と北海道の高嶋さん、京都の寺坂さん、香川の綾さん、秋田の鈴木さん、東京の伊藤さん・松本さんが次々とマイクを持ち、「分限免職でさまざまなものを失った。国民のため年金記録問題を早く解決するためにも、1日も早く職場に早く戻りたい」と、公正・平等原則に反した解雇の不当性を訴えました。



座り込み行動には民間の仲間も駆けつけ、生協労連の渡辺書記次長と東京争議団の小関団長、前・中労委労働者委員の淀さん（全医労顧問）、国共病組の丸山書記長、北区労連の野中書記次長が熱い激励あいさつを行いました。

全厚生中部社保支部の磯貝支部長と全厚生近畿社保支部の藤江書記



長が、「分限免職でベテランが少なくなり、有期雇用職員で年金業務を遂行しているがスキルが下がっている」「記録問題の解決のためには正規・非正規を問わず、経験豊富な職員の知識と専門性が不可欠だ」「国民が安心できる年金制度をつくる体制をつくるためにも、仲間に早く戻ってきてほしい」と職場の切実な実態を訴えました。

JAL 不当解雇撤回原告団長が激励～人事院前要求行動

昼休みの人事院前要求行動（写真右）では、国公労連の岩崎副委員長が主催者あいさつし、全労連の斉藤組織局長と医労連の山田委員長、全教の長尾副委員長、JAL 不当解雇撤回原告団の山口乗員原告団長が激励の連帯あいさつを行いました。



決意表明した全労働の並川中央執行委員（写真左）は「いま『ロックアウト解雇』のような人を人として扱わない酷い雇用が広がっている。この劣化した雇用には、人事院が手を貸すのか、ストップをかけるのか、その姿勢が問われる人事院審理といっても過言ではない。全労働は、1日も早い勝利判定を勝ち取るよう、全厚生闘争団とともに精一杯奮闘する」と述べました。



全厚生闘争団当事者の大阪の大島さん（写真下）は、「分限免職された1年目は毎日ハローワークに通い、面接で会社から『分限免職されたのは、何か悪いことをしたのか』と問われ、辛く悔しい思いをした。いまは1年更新の有期雇用で働いている。人事院が公平公正な判定をだすことを信じている。私たち闘争団は、勝利するまで最後までたたかう」と力強く訴えました。

最後に「人事院は年度内に公正判定を行え」「厚労省は社保庁職員の不当解雇を撤回しろ」「有期雇用職員の雇用を守れ」と元気にシュプレヒコールと団結がんばろうを行い、人事院の取消判定を勝ちとる決意を固めました。



なお、3日間を通じブロック国公・各単組地本・支部などから激励と連帯のメッセージが多数寄せられ、全労連と北区労連からは陣中見舞いを、全労連女性部と全労働、国公共済会からは差し入れをいただきました。

公正・平等原則に反した解雇は無効！

人事院・厚労省前座り込み行動 2 日目

2日目の3月18日も初日と同様に、人事院の勝利判定と有期職員雇い止め阻止にむけた座り込み「緊急人事院・厚労省前行動」を展開しました。

行動には、全労連の各単産と北区労連、東京争議団、民間労組、農民連と全商連などの民主団体も激励に駆けつけ150人が参加しました。全厚生の本省支部、近畿社保支部、関東社保支部、全厚生闘争団当事者（北海道・東京・京都・愛媛）も多数参加しました。

新聞労連など民間労組からエール！農民連はポンカン差し入れ

強風のなか国公労連は、朝8時30分から厚労省・人事院前での宣伝行動を実施し、各単組の弁士が宣伝カーから訴えるとともに、「公正・平等原則に反した解雇は違法」「許せない！国策による公務員のクビ切り」と訴えるチラシ1600枚を配布しました。

10時からの座り込み行動（写真下）では、国公労連の川村副委員長と全厚生の杉浦副委員長が主催者あいさつを行いました。



全厚生闘争団当事者の京都の中本さん（全厚生闘争団事務局次長）と西尾さん、永田さん、愛媛の出原さん、東京の松本さんと伊藤さんが次々とマイクを持ち、「国家公務員のクビ切りは45年間行われなかった。解雇回避努力をせず、公正・平等の取り扱いの原則を踏みにじった大量解雇は許され

ない。京都の3人はまだ仕事に就けていない。分限免職処分を取り消す判定を早くしてほしい。私たちは精一杯たたかいます。ご支援をよろしくお願いいたします」と、自らのつらい体験を込めて訴えました。年金機構の職場からは、全厚生近畿社保支部の井上執行委員が職場の切実な実態を訴えました。

座り込み行動には民間労組や民主団体の仲間も駆けつけ、建交労トンネルじん肺訴訟原告団(3名)、新聞労連の松永書記長（写真右）、年金者組合の田島副委員長、全労連・全国一般東京地本の平谷中執、JMIUいすゞ支部原告の五戸さん、農民連の上山さんが激励あいさつを行いました。農民連からは静岡の仲間がつくったポンカンの差し入れをいただきました。



全労連、東京地評、農民連が連帯あいさつ～人事院前要求行動

昼休みの人事院前要求行動では国公労連の岡部書記長が主催者あいさつし、「いま人事

院判定の最重要局面を迎えている。解雇回避努力義務を果たさず公正な取扱いに反したズサンな政府・厚労省の対応が浮き彫りになり、解雇の不当性が明らかになった。年金機構の有期雇用職員 2000 人雇い止めなど経験者の雇い止めは『信頼回復』に背をむけるものであり許されない。2013 春闘ですべての労働者の賃金底上げ、賃下げに歯止めをかける賃下げ違憲訴訟、社保庁不当解雇撤回など解雇自由を許さないため、ともにたたかおう」と力強く呼びかけました。



全労連の渡辺事務局次長、東京地評の伊藤議長、農民連の笹渡事務局長、自由法曹団の中川弁護士が激励の連帯あいさつを行いました。



決意表明した国土交通労組の江村副委員長（写真左）は「地方出先機関廃止攻撃がかけられているなか分限免職問題は自らの問題としてとりくんでいる。公務・公共サービス切り捨ては、国民生活の切り捨てだ。国交労組は、分限免職処分の取り消しを求め、有期雇用職員雇い止め反対のとりくみに奮闘する」と述べました。

全厚生闘争団当事者の北海道の高嶋さんは、「人員削減と業務量増加のなか長時間残業を強いられ、病気休職中に分限免職された。い

ま札幌地裁で処分取消の行政訴訟を行っている。民間と公務の首切りを許さないため、引き続き支援をお願いします」と解雇の不当性、違法性を訴えました。

最後に、全厚生闘争団（写真右）の中本事務局次長（京都国公務務局長）がシュプレヒコールを行い、人事院の取消判定を勝ちとる決意を固めあいました。



乱暴な解雇許さない！勝利判定にむけ全力 人事院・厚労省前座り込み行動 3 日目

初夏の陽気となった 3 月 19 日、人事院の勝利判定と有期職員雇い止め阻止にむけた座り込み「緊急人事院・厚労省前行動」の 3 日目を展開しました。

最終日の行動には、全労連の各単産と北区労連、新聞労連、国労、東京争議団、民間労

組、さらには中央社保協・農民連などの民主団体も激励に駆けつけ 200 人が参加しました。全厚生の本省支部、日本年金機構本部支部、関東社保支部、全厚生闘争団当事者（愛知・東京・京都）も多数参加しました。

国労、新聞労連、 社保協などから熱いエール

3 日目も朝 8 時 30 分から厚労省・人事院前での宣伝行動を実施し、各単組の弁士が宣伝カーから訴え、「分限解雇回避の途を閉ざし政府・厚労省が解雇を強行」「年金記録解決のため雇い止めは撤回を」と訴えるチラシ約 2000 枚を配布しました。

10 時からの座り込み行動では、国



公労連の宮垣中央執行委員長が主催者あいさつし、全厚生の川名書記長が情勢報告を行いました。全厚生の川名書記長は、「安心年金つくろう会と連携して全厚生は、記録問題と絡

めて有期雇用職員問題を内外に訴えるなかで、職場での正規・有期の枠を超えた仲間の団結を深め、年金記録問題解決のためには蓄積した経験が求められていると訴え、国民的課題に押し上げてきた。有期雇用職員の雇用延長を強く求めるとともに、人事院判定の勝利、不当解雇撤回めざして奮闘していく」と決意を述べました。



全厚生闘争団当事者の京都の北久保さん、椋橋さん・鴨川さん・草川さん（写真左）、愛知の水野さん・星野さん、東京の伊藤さんが次々とマイクを持ち、「2 人の私立大学生がいるが、3 年間無職で貯金を取り崩す苦しい生活を強いられてきた」「国民の年金のために

一生懸命働いてきたのに分限免職された当事者 39 人の声を掲載したブックレット『なにが目的か？国家公務員の解雇』をぜひ読んでほしい」「私は産休・育児中に職を失い、いま生活に対する不安でいっぱいだ。早く分限免職処分を取り消す判定を出してほしい」と、自らのつらい体験を込めて訴えました。

座り込み行動には民間労組や民主団体の仲間も駆けつけ、中央社保協の相野谷事務局長、国労の小池中央執行委員（写真右）、JAL 客乗原告団の石賀事務局次長、東京争議団の谷田部さん・田畑さん、新聞労連の米倉副委員長、全印総連（DNP 争議）の橋場さんが激励あいさつを行いました。



全厚生からは、日本年金機構本部支部の佐藤書記長が「有期雇用職員は正規職員と同じ仕事をしているのに、今年 3 月末に解雇されようとしている。知識と経験をもつ有期職員の雇い止めは、同じ職場で働く仲間として断固許せない。年金記録解決のためにも、厚労省は雇用を延長するべきだ」と職場から雇い止め撤回を強く訴えました。

全労連、映演労連、自治労連、JM I U日本IBM支部が激励にかけつける ～人事院前要求行動～

昼休みの人事院前要求行動では国公労連の盛永副委員長が主催者あいさつし、全労連の根本副議長、映演労連の金丸委員長、自治労連の山口副委員長、JM I U日本IBM支部の大岡委員長が激励の連帯あいさつを行いました。

決意表明した全通信の古賀中央執行委員は「経験と専門性を持つベテランが解雇されることは国民の損失だ。毅然とした態度で分限免職処分を取り消す判定をだすことが人事院の仕事ではないか」と述べました。

全厚生闘争団当事者で京都原告団の谷口団長（写真右）は、「いま京都で裁判闘争をたたかっている。年金は国民にとって最後の砦だ。



私は『ボールペン1本で国民のために働ける』と誇りを持って、国民が喜ぶ姿が見たくて年金業務を行ってきた。人事院には、正しい判定を出してほしい。私たちは精一杯がんばりますので、ご支援をよろしくお願いいたします」と力強くたたかう決意を表明しました。

最後に、全厚生闘争団京都の草川さんがシュプレヒコールを行い、人事院の取消判定を勝ちとる決意を固めあいました。（国公労連速報No.2896・2898から転載しました）

激励と連帯メッセージありがとうございました！

北海道国公、東北ブロック国公、愛知国公、九プロ・福岡県国公、国土交通労働組合九州航空支部、全労働新潟支部、新聞労連・新聞通信合同ユニオン、矢田部暁則さんの過労死労災認定を支援する会、関東ブロック国公、近畿ブロック国公、茨城県国公、兵庫県国公、全法務、全法務四国地本、全労働佐賀支部、全労働新潟支部、国交労組東北運輸支部岩手陸運分会、国交労組関東中部気象支部、国交労組関中気象支部横浜分会、国土交通労働組合近畿港湾空港支部近畿本局分会、神奈川国公、全医労近畿地方協議会、総理府労連、東京争議団田畑さん、全労働北海道支部、全労働千葉支部、全労働徳島支部、全労働九州地協

事務局

〒604-8854

京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール京都地下

京都国公気付 ☎:075-801-7875 FAX:075-801-7876（共に京都国公）

[mail:zenkousei-tousoudan@xug.biglobe.ne.jp](mailto:zenkousei-tousoudan@xug.biglobe.ne.jp)（全厚生闘争団メールアドレス）

http://www.geocities.jp/zks_sasaerukai/index.html（全厚生闘争団を支える会ホームページ）